

マンガにおける文語とキャラクターの関係性

松岡知津子・ポツィアスキアンドレ

The Relationship Between Literary Japanese and Characters in Manga

MATSUOKA Chizuko, PODZIERSKI Andre

〈Abstract〉

This paper examines the use of *bungo* (Literary Japanese) by certain characters in the Japanese manga series “Bungō Stray Dogs” and “Sailor Moon.” The study uncovers the following points: (1) In these works, entities that are feared (resembling demons or witches) utilize *bungo*. (2) While some characters consistently employ elements of *bungo*, others use it only sporadically, and the sporadic use of such language does not necessarily signify a frightening presence. (3) Characters who use Literary Japanese in specific, limited scenarios are believed to do so to add depth and significance to their dialogue in particular scenes or situations.

キーワード：文語、キャラクター、マンガ、役割語、効果

1. はじめに

現代日本語では、言文一致の原則により、文語の使用は一般に見られないものとされている^①。しかし、実際には、文語の影響は依然として顕著である。例えば、以下のような例である。いずれも筆者らによる作例である。

- (1) 先生曰く、試験は明日するんだって。
- (2) 相変わらず、歯に衣着せぬ物言いだね。

例(1)は、「先生が試験は明日すると言った」という意味であるが、「～曰く」という文語を使用した会話が行われることも少なくない。また、例(2)は「歯に衣着せぬ+N」の形で使われる定型表現である。これら以外にも文語が日常会話において部分的に現れることは少なくない。このような現象は、文語が日本社会において依然として一定の役割を果たしていること、そして諺等にも文語の要素が残っていることにより、日本語母語話者は幼少期から意識せずとも文語に触れていることに関連していると考えられる。これにより、上記以外の場面、例えばマンガ等における文語の使用が、日本語母語話者に自然に受

け入れられる背景が形成されていると考えられる。

しかし、例えば以下のマンガのセリフ (3) (4) には、上記の例 (1) (2) とは異なり、大半が文語によって形成されていることが分かる⁽²⁾。

(3) 我が刃なくして何(な)ぞ四海の内に於て百事の盡く權衡を得るを望むべけんや (文豪 15-100)

(4) —— わが大いなる支配者へささげる人間どものエナジーもまだまだ足りぬ! (セーラー 1-215)

例 (3) では、「我」という古典的な一人称代名詞が使用されている。現代日本語において、通常「我」は、話し言葉ではほとんど用いられない。さらに、「何(な)ぞ」や「べけんや」という表現も文語特有の言い回しであり、これらは現代語では一般的に使用されていない。また、例 (4) では、「わが」という一人称が用いられている。また、文末には「足りない」の代わりに「足りぬ」という古風な否定形が使われていることが分かる。

これらの例 (3) (4) は、例 (1) (2) のような定型表現で文の一部のみに用いられている場合とは異なり、文全体におかえる文語の占める割合が高くなっている。また、これらの例は「文豪ストレイドッグス」及び「美少女戦士セーラームーン」において全てのキャラクターが用いているわけではなく、ある特定のキャラクターだけが用いている。それでは、なぜ限られたキャラクターだけが、何のために文語を使用しているのだろうか。また、文語を使用することで、そのセリフにはどのような効果があるのだろうか。

本研究では、「文豪ストレイドッグス」及び「美少女戦士セーラームーン」における特定のキャラクターが文語を使用することで、どのような効果を生み出しているのかを考察した上で、文語が現代日本語においても重要な役割を果たしていること、日本語教育における文語指導の可能性について論じていきたい。

このような特定のキャラクターによる特定の言葉遣いについては、金水 (2003) の「役割語」という概念によって指摘されている。

ある特定の言葉遣い (語彙・語法・言い回し・イントネーション等) を聞くと特定の人物像 (年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等) を思い浮かべることができる時、あるいは特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができる時、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。(金水 2003)

上述した通り、本研究ではマンガに登場するキャラクターが文語を使用していることを指摘する。そして、それらのキャラクターがマンガの中でどのような地位を占めるのか、どのような印象を与えようとしているのかについて考察する。具体的には「文豪ストレイドッグス」におけるいくつかのキャラクターを中心に、その他「美少女戦士セーラームーン」を研究の範囲とする。

2. 先行研究

日本語には、さまざまな役割語が存在している。キャラクターによって異なる話し方があり、これらに関する研究として、例えば「アルヨ言葉」という偽中国人が使っている言葉（金水 2003, 2007, 2014）や関西人だけではなく面白いキャラクターやけちなキャラクターが使う関西弁（金水 2003, 田中 2011, 信國 2023）がある。例えば以下のような例である。

(5) 三つの刀と書いて、三刀というアル（シェンムー）

これは、「シェンムー」（1999）というゲームに登場する中国人キャラクターのセリフであるが、日本語を話す多くの中国人がこのような話し方をしているわけではない。しかし、日本語母語話者がこれを聞くと中国人を連想するだろう。また、以下のように大阪出身のキャラクターが関西弁を話している例もある。

(6) たった今、オレの目の前でホームズのカッコをしたオーナーが、車ごと海に落ちよったんや・・・（コナン 12-130）

これは、キャラクターが必ずしも大阪出身者というわけではなく、その物語等において、金水（2003）が指摘するように「ケチ」や「やくざ」等の印象を与える役割も果たしている。

このような、役割語が与える特定の印象に関する記述のほか、役割語については日本語と英語、韓国語といった外国語を対照した研究（鄭 2007, 山口 2007 他）、日本語のキャラ助詞に関するもの（定延 2007）、役割語の音声的側面に関するもの（勅使河原 2007）等さまざまな側面から研究が行われている。

本研究では、例（3）（4）で見たような、特定の表現つまり文語について、どのようなマンガのキャラクターがどのような役割語を話しているのか、またそれによってどのよう

な印象が与えられているのかを考察する。また、役割語としてではなく、文語が用いられているような場合についても考察していくことで、マンガにおける文語の役割について考えていく。

3. マンガに見られる文語とその役割

本節では、まず文豪ストレイドッグスのキャラクターのうち、常に文語を話している 2 つのキャラクターを見ていく。

3. 1. 「文豪ストレイドッグス」における芥川龍之介

「文豪ストレイドッグス」の公式ホームページにおいて、芥川龍之介というキャラクターは以下のように記されている。

ある港を縄張りとする凶悪なポートマフィアの構成員。黒い外套を纏い、冷たい表情を浮かべ街を闊歩する姿はまるで死神。軍警の手には負えず、また、探偵社の中でも「こいつには遭うな、遭ったら逃げろ」と恐れられる存在である。

芥川の外見のみならず、セリフもその冷酷で謎めいたキャラクターを反映しており、多くの文語的要素を取り入れた独特の言葉を使用する。例えば、否定形「ぬ」や、「よ」を用いた命令形などが頻繁に見られる。このような言葉遣いは、芥川の時代を超越した存在感や、他者との距離感を生み出す効果があると考えられる。芥川という言葉遣いとその冷酷さや孤立した性格は、密接に結びついていると言えるであろう。また、芥川はマンガ全体にわたって一貫して文語を使用しているが、同時に現代語の要素も取り入れている。例えば文末に終助詞「だ」を使用することもある。

以下では、まず芥川のセリフに現れる文語を見ていく。以下の例を参照されたい。

- (7) 構わぬ・・・・・・・・来い (文豪 6-22)
- (8) 或る人からの・・・・・・・・極詰らぬ一言だ (文豪 6-23)
- (9) その様な事・・・・・・・・貴様に伝われずとも・・・・・・・・判っている・・・・・・・・ (文豪 6-33)
- (10) 故にこの程度の絶望に僕 (やつがれ) は枯らせぬ (文豪 6-19)
- (11) だが僕 (やつがれ) からすれば貴様こそ理解出来ぬ (文豪 9-31)
- (12) その臆病な眼は己の力も異能も信じていない (文豪 9-31)
- (13) だのに船上や此処では無謀な死闘に挑む (文豪 9-31)
- (14) 然り (文豪 9-49)
- (15) 戦果なき限りあの人は僕 (やつがれ) を認めぬ (文豪 9-49)

- (16) ならば解錠より敵の所在捜しを優先せよ (文豪 13-30)
- (17) この程度の鉄扉断ち割るは容易いがウイルス異能者を狩らねば数刻で首領が死ぬ (文豪 13-30)
- (18) 喋れ・・・だが牢紀せよ (文豪 13-23)
- (19) 僕 (やつがれ) は恵まれし貴様が唯憎かった (文豪 13-111)
- (20) 死を惧れよ (文豪 1-155)
- (21) 殺しを惧れよ (文豪 1-155)
- (22) 死を望む者等しく死に望まるるが故に—— (文豪 1-155)

芥川のセリフは、現代日本語では一般的に使われる否定形「ない」の代わりに、文語的な否定形「ぬ」を使用することが特徴的である。例えば、(7)「構わぬ」、(8)「極詰らぬ」、(10)「枯らせぬ」、(11)「理解出来ぬ」、(15)「認めぬ」といったセリフでこの形が見られる。(17)「狩らねば」のように、「ぬ」の已然形も用いられることがある。この表現は、現代日本語の「狩らなければ」に相当する。また、否定形「ぬ」は、他の多くのマンガのキャラクターにおいても頻繁に使用される。これらのキャラクターは、他に文語的要素をほとんど使用しない場合でも否定形「ぬ」だけは使用することが多い。

また、(8)「極詰らぬ一言」のように、「ぬ」は終止形 (文末における否定形「ぬ」) だけでなく、連体形「ぬ」(adnominal) も使用される⁽³⁾。(9)「伝わらずとも」という表現は、現代語では一般的に使われる「なくとも」よりも硬い印象を与え、他者との距離感を示している。同様に、(13)「だのに」では、現代語で一般的に使われる「なのに」の代わりに、古風で現代ではあまり使われなくなった「だのに」を使用している。さらに、(12)「己」も、現代では一般的ではないが、マンガなどでより真剣な表現として使用されることがあり、感動詞のように使用される。(14)「然り」も、現代語では稀であり、キャラクターに距離感を与える効果があると考えられる。また、(17)「断ち割るは容易い」では、動詞「断ち割る」が連体形で用いられ、名詞化されていることが注目に値する。この用法は、現代語では一般的ではなく、名詞化には「の」や「こと」が用いられるのが普通である。

芥川は、命令形においても文語的な特徴を示している。彼は、多くの場合、現代日本語で一般的な「ろ」を使った命令形ではなく、「よ」を用いた命令形を使用している。例えば、(16)「優先せよ」、(18)「牢紀せよ」、(20)「惧れよ」、(21)「惧れよ」などがこれに該当する。これらの場合、現代日本語での命令形は「優先しろ」、「牢紀しろ」、「恐れる」となるであろう。しかしながら、例えば (7)「来い」や一段動詞に関しては、文語と現代

語の間で命令形に違いがないため、区別ができない。また、(22) では「望まれる」ではなく「望まるる」が用いられている。その他、芥川の言葉遣いには、現代日本語ではあまり耳にしない表現も含まれている。例えば、「だのに」(13) も使用されており、現代日本語では「なのに」という表現が一般的である。この表現は、文語ではないが、古風なニュアンスを持ち、キャラクターの雰囲気を実際立たせている。これは、(21) 「望む者」のような表現にも見られる。ここでは、一般的な「人」ではなく、より書き言葉の「者」が使用されており、その性質がより感情を抑えた、無機質な響きを持っている。これは、キャラクターの言葉遣いにおいて、感情を抑制したり、距離感を出したりする効果を生んでいる。(19) 「恵まれし貴様」の助動詞「き」(連体形「し」) も文語の形態素であり、過去を示している。芥川の言葉遣いが文語を使用しているのは、単に文語を使うためではなく、特定の雰囲気を創出するためである。彼のキャラクターの冷たさや孤立感を表現するために、古い表現や現代ではあまり使われない言葉が用いられている。このように、文語的な要素や古風な表現を通じて、キャラクターの特性や雰囲気を強調することが、芥川の言葉遣いの重要な側面となっている。芥川の一人称も (19) 僕 (やつがれ) であり、古風な表現の一つとなるが、他に文語を使うキャラクターは僕 (やつがれ) を使っておらず、文語においても一般的な表現ではないため、芥川の特徴的なキャラ語として考えてよいであろう。

以下では、同じ「文豪ストレイドッグス」のその他のキャラクターで文語を用いる場合を見ていくこととする。

3. 2. 「文豪ストレイドッグス」における孤児院職員

マンガ「文豪ストレイドッグス」において、中島敦というキャラクターは、過去における孤児院職員からの冷たい言葉によく悩まされている。これらの言葉は、中島が孤児院で望まれていなかったことを伝えるために使われており、中島の心に深い傷を残している。これらのセリフは、中島の孤独感や排除感を象徴していると考えられる。以下の例は全て孤児院職員が中島に向けて発したものである。

(23) お前など孤児院にも要らぬ！ (文豪 1-6)

(24) この院に穀潰しは要らぬ (文豪 1-25)

(25) この世の邪魔だ—— 昔の邪魔ゆえ疾く消えよ この世から消え失せるがいい
(文豪 1-26)

(26) 周囲に迷惑と不幸を振りまき何一つ成し遂げぬ者が (文豪 2-157)

(27) 誰も救わぬ者に生きる価値などない (文豪 2-157)

これらのセリフでは、「要らない」、「消えなさい」、「成し遂げない」などの代わりに(23) (24)「要らぬ」、(25)「消えよ」、(26)「成し遂げぬ」といった文語が用いられている。(23) (24) および (26) は否定を、(25) は命令を表している。その他、(25)「消え失せるがいい」という表現もある。現代日本語においては「消え失せた方がいい」という形が使われることが多いが、ここでは「失せる」の連体形が使われ、動詞を名詞化している。「・・・るが良い」というパターンは、文語の影響が強く見られ、より強い、硬い印象を与える表現となっている。このような文語的な言葉遣いは、孤児院職員の厳しさや無慈悲さを象徴し、彼らの言葉が中島敦に与える影響の強さを際立たせている。

また、孤児院職員のセリフでは、「者」が「人」の代わりに使われていることも注目すべき点である。例えば、(27)「誰も救わぬ者」というセリフにおいて、「者」はよりフォーマルな表現として使用され、話し手の冷たさや厳しさを強調している。このような言葉の選択は、キャラクターの感情を抑えた表現や、他者との距離感を生み出す効果を持ち、孤児院職員の言葉が中島敦に与える冷酷さを強調していると言える。

一方で、これらのセリフには、現代日本語の形態素も使用されており、文語的な表現と現代的な表現が混在していることが注目に値する。例えば、(25)「邪魔だ」や(27)「価値などない」といった現代日本語の形態素も用いられている。これは、言文一致運動の時期にも見られたような、文語と口語の混合が特徴的な言語スタイルを反映している。そのため、この言語スタイルは必ずしも人工的なものとは限らず、自然な言語の進化の一環であると見ることができるが、話し言葉として使うのが特別である。さらに、このような文語と現代語の混在は、読者が過度に難解な文語や馴染みの薄い形態素に圧倒されることなく、物語に没入できるように配慮されている可能性がある。

3. 3. マンガ「美少女戦士セーラームーン」におけるクイン・ベリル

これまで、マンガ「文豪ストレイドッグス」において主に文語を使用する2つのキャラクター、つまり芥川と孤児院職員のセリフとその特徴について述べてきた。本節では、マンガ「美少女戦士セーラームーン」におけるクイン・ベリルというキャラクターにおける例を観察し、「文豪ストレイドッグス」における芥川及び孤児院職員と同様の特徴が見られることを示していくこととする。以下の例を参照されたい。

クイン・ベリルは暗黒王国の暗黒女王である。彼女の存在は畏敬と恐怖の両方を引き起こす。火のように赤い髪と目を持ち、魔法の力に満ちた黒いクリスタルボールを操る彼女は、紫色のドレスと緑の石のティアラ、そしてイヤリングを身につけている。

- (28) ——まだ見つからぬのか「幻の銀水晶」は (セーラー 1-49)
- (29) ——わが大いなる支配者へささげる人間どものエネルギーもまだまだ足りぬ! (セーラー 1-215)
- (30) こんどこそ失敗は許さぬ! (セーラー 2-133)
- (31) あのセーラームーンとやら——もしや「幻の銀水晶」をもつ者を知っているかもしれぬ・・・・・! (セーラー 1-267)
- (32) ——隠しもっているかもしれぬ! (セーラー 1-267)
- (33) ・・・・・月の王国をつぐ者・・・・・か (セーラー 1-267)

これらのセリフでは、文豪ストレイドッグスのキャラクターと同じく、否定形「ぬ」が頻繁に用いられており、例えば、(28)「見つからぬ」、(29)「足りぬ」、(30)「許さぬ」、(31)「知っているかもしれぬ」(32)「隠しもっているかもしれぬ」と表される。この否定形は、クイン・ベリルの悪意と決断力を表しており、彼女の厳格な性格を際立たせているであろう。現代語では、一般的に「ない」を使って表現され、(28)「見つからない」、(29)「足りない」、(30)「許さない」、(31)「知っているかもしれない」(32)「隠しもっているかもしれない」となる。

また、(31)「幻の銀水晶をもつ者」と(33)「月の王国をつぐ者」という表現において、「者」が「人」の代わりに使われている点も注目に値する。この言葉選びも、彼女のフォーマルで威厳ある話し方を反映しており、彼女の権威と冷酷さを強調している。

さらに、「わが」という一人称や「大いなる」という言葉の使用も、普通の口語とは異なり、文語の影響を受けた言葉遣いであることがわかる。

3. 4. 「美少女戦士セーラームーン」におけるクイン・メタリア

クイン・メタリアは、暗黒王国の真の黒幕であり指導者である。彼女は有害な、形のないエネルギー存在で、クイン・ベリルに力を与えた存在として知られている。クイン・メタリアのセリフには、彼女の悪役としての性格を強調するために、古風な言葉遣いや文語の要素が多用されている。以下にその具体例を挙げる。

- (34) エネルギーでは足りぬ・・・・・! (セーラー 1-262)
- (35) はるか古 (いにしえ) のこのわたしを葬ったあの忌まわしい王国の手の者が・・・・・
・ (セーラー 1-263)
- (36) そんなことはさせぬ・・・・・! (セーラー 1-263)

(37) だがプリンセスからはなんの気配も感じられぬ！（セーラー 2-32）

(38) 浅はかで弱い何も知らぬ王女よ このわたしを封印なぞできるものか？（セーラー 2-227）

例えば、(34)「足りぬ」、(36)「させぬ」、(37)「感じられぬ」は、いずれも否定形「ぬ」の使用であり、現代語では「足りない」、「させない」、「感じられない」と表現される。この古風な否定形は、彼女の強い意志と悪意を表していると言えよう。また、(35)「王国の手の者が」における「者」の使用は、また「人」の代わりに用いられ、彼女の話し方に悪意や威厳を与えている。これもクイン・メタリアが他の文語の要素を使用するキャラクターと同様の特徴である。さらに、(38)「王女よ」という呼格（vocative）の使用は、直接的な呼びかけとしての「よ」が付く形は現代では一般的ではなく、クイン・メタリアの発言に高貴さと威圧感を加えている。

これらの文語の要素の使用は、クイン・ベリルと同様に、クイン・メタリアのセリフを邪悪で冷酷、かつ高貴な雰囲気にしており、彼女のキャラクターを効果的に表現しているであろう。このようなスタイルは両者の話し方が類似しているため、二人の言葉遣いを区別することは難しい。しかし、「美少女戦士セーラームーン」におけるセリフと「文豪ストレイドッグス」に登場する文豪キャラクターたちの言葉とを比較すると、前者のセリフはしばしば理解しやすくなっている。これは、テーマや対象とする読者に配慮した結果であろう。若年層や一般の読者が、複雑な文語や珍しい形態素に精通しているとは限らないため、「美少女戦士セーラームーン」ではより認知度の高い文語の形態素が用いられていると考えられる。

以上、マンガ「文豪ストレイドッグス」及び「美少女戦士セーラームーン」において、文語を使用するキャラクターたちとそのキャラクターが与える印象について見てきた。

以下では、上記のキャラクターほどには文語を使用しないが、特定の場面において部分的に文語を使用するキャラクターについて見ていくことで、そのキャラクターがどのような場面において文語を使用するのか、また、なぜ文語を使用するのかについて考察していくこととする。

3. 5. 部分的に文語を使うキャラクター

これまで、マンガ「文豪ストレイドッグス」の芥川と孤児院職員、及び「美少女戦士セーラームーン」におけるクイン・ベリルとクイン・メタリアが用いる文語について見てきたが、その他のキャラクターにおいても文語が使用されることがある。ただし、芥川や孤児

院職員ほど文語を用いるわけではなく、どちらかという現代日本語の方を多く使用しており、ある特定の限られた場面においてのみ文語を使用している。例えば「文豪ストレイドッグス」における太宰治というキャラクターである。これは、普段は以下の例 (39) のように現代日本語を用いているが、時として例 (40) のように文語となることがある。それでは現代語と文語はどのように使い分けられているのであろうか。例えば太宰治というキャラクターは、芥川龍之介のようにマンガ全体にわたって一貫して使用するわけではない。例として以下のセリフが挙げられる。

(39) 違うよ 首吊り健康法だよ 知らない? (文豪 1-20)

(40) 何と かくの如き佳麗なるご婦人が若き命を散らすとは・・・・・・! (文豪 2-62)

太宰のセリフの中で、(39)「違うよ 首吊り健康法だよ 知らない?」を見ると、現代語の用法が顕著である。太宰は通常、文語の影響を受けずに現代語を使用しており、例えば (39) では、否定形として「ぬ」ではなく、「ない」を用いていることが分かる。

しかし、(40) のように文語の要素が強いセリフも存在する。例えば、(40)「かくの如き」は古い表現であり、現代日本語では「このような」と同じ意味を持つ。また、「佳麗なるご婦人」は現代語の文法では「佳麗なご婦人」と表現されることが一般的であり、連体形では「な」が使用される。さらに、「若き命」も連体形の「き」という文語的な語尾であり、現代語では「い」が用いられる。太宰が用いる文語は、役割語ではなく、特定の文脈内で何かを劇的に響かせるための状況に基づいた使用であると考えられる。このシーンでは、太宰が文語を使用することで、おそらく詩的かつ劇的な効果を狙っているであろう。

また、火野レイも「美少女戦士セーラームーン」において特定の状況においてのみ文語を使用するキャラクターである。火野は、通常は現代語を用いているが、邪悪な霊を払いのける際において、文語を使用する。この行為は神聖な儀式と関連しており、彼女のセリフに古風な要素が取り入れられることで、その神聖さを高めている。彼女が使う文語は、儀式の一環として伝統的な言葉遣いを採用し、霊的な力と彼女自身の神秘性を表現している。これにより、レイのキャラクターが神職としての役割を持つことが強調され、セリフがその状況にふさわしい重みと格式を帯びるであろう。したがって、文語の使用は常に使っている役割語ではなく、火野レイの霊的な行動と密接に結びついていると言える。

(41) まちがえてしまいましたわ たしかに妖気をかんじたんですけど (セーラー
1-96)

(42) 神聖なるこの神社に災いをもたらす輩 —— ゆるしませぬ!
—— 悪霊たいさーんっ (セーラー 1-95)

火野レイのセリフにおける文語の使用は、彼女の神職者としての役割を浮かび上がらせる。特に、悪霊を払う際にはその言葉遣いが顕著である。例えば、(42)「神聖なるこの神社に災いをもたらす輩 —— ゆるしませぬ！」において、「神聖なるこの神社」は、「神聖のこの神社」や「神聖であるこの神社」とは異なり、現代語では生産的に普段使用されない「なる」が使われている。

また、「ゆるしませぬ」において、文語の否定形「ぬ」と助動詞「ます」が組み合わされていることは興味深い。これは、他のキャラクターが用いる同じ否定形「ぬ」であるが、火野レイは悪役ではなく、神秘性と尊厳を表すためにこの形を用いている。この助動詞の使用は、彼女の言葉に丁寧さを加え、霊的な儀式の場における彼女の純粋さと真剣さを反映していると言えよう。

4. まとめと今後の課題

本研究では、マンガに現れる文語を考察するため、「文豪ストレイドッグス」及び「美少女戦士セーラームーン」を例として取り上げ、マンガの中でどのようなキャラクターに文語が用いられているのかを考察した。その結果、「文豪ストレイドッグス」においては芥川と孤児院職員が、「美少女戦士セーラームーン」においてはクイン・ベリルとクイン・メタリアが作品中一貫して文語を多用することを指摘した。これらのキャラクターは、物語において「強さ」や「恐れられる存在」として扱われており、文語を使用することでその特別さが表されていると考えられる。すなわち、これは役割語としての機能を果たしていると言えよう。

その他、「文豪ストレイドッグス」における太宰や「美少女戦士セーラームーン」における火野は、通常は現代語を使用しているものの、セリフに特別な重みを持たせるような状況においては文語が使用されていることを指摘した。「美少女戦士セーラームーン」では火野が悪霊を追い出そうとしている際のセリフには儀式的な響きがあるために文語が採用されている。これらの事例を通じて、特別な文脈における文語の選択が、感情表現やシーンの重み付けにおいて不可欠であることが示されている。この点は、両作品の例によって明らかにされ、他の多くのマンガにおいても、感情表現やシーンの効果的な描写において

文語が重要な役割を果たしている。「美少女戦士セーラームーン」における火野の例では、特定の状況下で彼女の巫女としての役割が際立ち、悪霊払いの際に文語を用いることが見られる。これは作品全体を通して一貫している訳ではないものの、役割語の一形態と考えられるかもしれない。一方で、太宰の場合には、キャラクターの通常の役割とは無関係に、断続的に文語が用いられる事例が存在する。

本稿においては、マンガ「文豪ストレイドッグス」と「美少女戦士セーラームーン」の 2 作品を対象を絞ってキャラクターの用いる文語要素の考察を行ったが、今後は、より多くのマンガや、マンガ以外の現代語の媒体においてみられる文語にも範囲を広げ考察していきたい。その過程で、特に頻繁に出現する形態素や表現に焦点を当て、現代の読者がこれらをどの程度正確に理解できるか、または作家が読者の理解度をどの程度認識しているのかを分析したい。

注

- (1) 橋本 (1939) 『改制新文典別記 文語篇』という日本の学校文法の文語編には次のような記述がある。「口語には口語の文法があり、文語には文語の文法があります。本書には『その文法が違つてゐる』としておきましたが、勿論両者が全然相違して相容れないという意味ではなく、共通する部分も少なくありません。つまり口語・文語には、それぞ独特の文法があるという意味なのです。」この引用は、口語と文語の間には明確な境界線が存在しないことを示唆している。なぜなら、両者の間には重複する部分が存在するからである。本稿では、現代語と文語の違いが明確な場合を示すことを試みる。しかし、両言語形式の間に明確な境界を引くことは困難である。なぜなら、文語の多くの形態素が現代語でも稀に使用されることがあり、また現代日本語の形態素も文語の一部として存在しているからである。
- (2) 本稿で扱うマンガの用例には、漢字にふりがなが付されている場合があるが、本稿では通常の読み方をする場合省略することとする。ただし、通常の読み方をしない場合にはふりがなを付している。また、本稿で例を示す場合、以下のように作品名を省略し、その後に巻数とページ数を記すこととする。
「文豪ストレイドッグス」:(文豪)
「美少女戦士セーラームーン」:(セーラー)
- (3) さらに、連用形「ず」(adverbial) も使用されているが、これは現代語においても一般的に使われるため、文語との明確な区別は難しい。

参考文献

- 鬼塚千代 (2011) 「韓国の教科書における役割語の役割—『生きた日本語』を教えるバーチャルリアリティー」『役割語の展開』, くろしお出版, pp.51-70.
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語—役割語の謎—』, 岩波書店
- 金水敏 (2007) 「役割語としてのピジン日本語の歴史素描」『役割語研究の地平』, 金水敏 (編), く

- ろしお出版, pp.193-210.
- 金水敏 (2014) 『コレモ日本語アルカ?—異人のことばが生まれるとき』, 岩波書店.
- 定延利之 (2007) 「キャラ助詞が現れる環境」『役割語の地平』金水敏 (編) くろしお出版 pp. 27-48.
- 田中ゆかり (2011) 『「方言コスプレ」の時代——ニセ関西弁から龍馬語まで』 岩波書店.
- 勅使河三保子 (2007) 「声質から見た声のステレオタイプ」『役割語の地平』金水敏 (編) くろしお出版 pp. 49-69.
- 鄭恵先 (2007) 「日韓対照役割語研究—その可能性を探る—」『役割語の地平』金水敏 (編) くろしお出版 pp. 71-93.
- 信國萌 (2023) 「役割語としての<関西弁>とドイツ語翻訳についての一考察—『名探偵コナン』を例として—」『都市文化研究』, 第 25 号, pp. 41-51.
- 橋本進吉 (1939) 『改制新文典別記 文語篇』, 富山房.
- 山口治彦 (2007) 「役割語の個別性と普遍性—日英の対照を通して—」『役割語の地平』金水敏 (編), くろしお出版, pp. 9-25.

参考資料

- 青山剛昌 (1996) 『名探偵コナン 12』小学館.
- 朝霧カフカ (2013) 『文豪ストレイドッグス 1』角川書店.
- 朝霧カフカ (2013) 『文豪ストレイドッグス 2』角川書店.
- 朝霧カフカ (2014) 『文豪ストレイドッグス 6』角川書店.
- 朝霧カフカ (2015) 『文豪ストレイドッグス 9』角川書店.
- 朝霧カフカ (2017) 『文豪ストレイドッグス 13』角川書店.
- 朝霧カフカ (2018) 『文豪ストレイドッグス 15』角川書店.
- 鈴木裕 (1999) 「シェンムー」, セガ.
- 武内直子 (2013) 『美少女戦士セーラームーン完全版 1』講談社.
- 武内直子 (2013) 『美少女戦士セーラームーン完全版 2』講談社.
- 文豪ストレイドッグス公式サイト
<http://bungo-stray-dogs.jp/character/?character=akutagawa-ryunosuke> (2023 年 12 月 20 日閲覧)